

熟年のささやかな挑戦

工藤 莞司

【 挑戦 1 】

10年前にハイキングに目覚めて以来300回程歩いた。先日記録を整理すると富士山以下、北は旭岳から南は開聞岳まで、深田100名山も20座程登っている。これまでは低山でも、鎖や梯子のある岩山は避けて来た。関東周辺では吾妻の岩櫃山や栃木の石裂山など。榛名の相馬山は登山口を素通りした。しかし、めばしい山は次第に少なくなり、元気なうちに登りたいと思うようになった。実際は案ずる程に難しくなく、また怖くない岩場であることもある。仲間のベテランに同行を願い、登攀したいと思っている。

【 挑戦 2 】

山歩き、里歩きの記録を作成して、友人知人に送り付けている。在宅中の休日はウィスキーグラスを片手に、先日のルートや風景を思い出しながらパソコンを打つ。後日記録を読み返しては、再度山里歩きをして、自然を味わい史跡などを巡って楽しむ。記録に写真を入れたいと思っていたら、先般、長男がデジカメをプレゼントしてくれた。残念ながら、未だそれらの接続操作ができない。是非マスターして、野の花や山里風景を散りばめた記録にしたい。時間があればと思っているが問題はやる気だろう。

【 挑戦 3 】

中世城跡巡りは山歩きより古い。現在に遺る濠跡や土塁は人里離れた丘や山中にあるのが大半だ。当然交通不便の地で、駅から徒歩1時間の城跡もざらで、例えば、沼田市周辺にある名胡桃城や長井坂城である。その分探し求めた城跡遺構には感激が倍加し、一層戦国ロマンを掻き立てる。リタイヤを機会にペーパードライバーを解消し、念願のミニ四駆‘パジェロミニ’を求めて城跡探訪の梯子をするのが数年来の夢である。勿論山歩きのアクセスにも使用しない。

部屋探しに挑戦

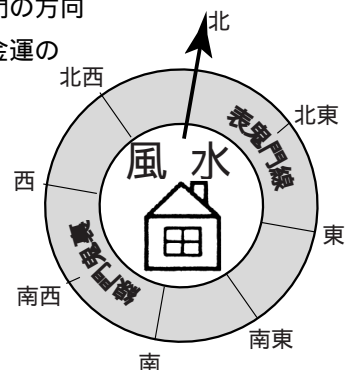
やどかり

一人暮らしをしてみることにしました。手始めにインターネットで情報収集をすること一ヶ月。どんな不動産屋さんとも堂々と渡り合ってみせる！と自信をつけて目星をつけた駅に乗り込んだわけなのですが、世間では異動や卒業などと全く関係ない時期だったために、物件数はあまりなく出足は不調でした。駅から10分以内でリーズナブルな家賃、しかも南向きという条件はやはり難しかったようです。

さらに自分でも気が付いていなかったのですが、テレビ等で活躍中の人気風水師にかなり影響されていたようで、『あ～この部屋は玄関が“鬼門”だなあ～』等と気になる自分を抑えることができず。しかしすべての風水的条件が兼ね備えられた理想的な物件といっても、高いビルとビルの狭間の古いマンションで、天気の良い日中だったにもかかわらず、薄暗い廊下には切れかかった蛍光灯がともし出所不明の水溜まりのある、なんとも陰気な建物でありました。真っ暗な部屋は何年も住人がいないようで、ドアを開けた途端、かび臭い風がサアッとこちらに向かって流れ込んで来たのでそっとドアを締める他なく。女性の不動産屋さんだったのですが、何か“出る”前にと二人して慌てて立ち去ることにしました。風水さえ守っていれば良いということでもないんだな...と思った瞬間です。

ようやく決めた部屋は、古い建物ですが日当たりが良くぼかぼかと暖かそうで、外の寒さに震えていた私は『ここしかない!』と即決してしまいました。

しかしながら、鬼門の方向へ盛り塩したり西に金運の黄色の花を置いたりする私は、相変わらず風水の呪縛から逃れることができないようです...



Challenge

【 挑 戦 】

百人一首

銀座小町

お正月といえば、百人一首。幼少期の我が家の新年の風物詩でした。「挑戦」でなんで「百人一首」？単純な話で、ネットの「百人一首のチャレンジコーナー」に、暇つぶし&頭の体操を兼ねて、今、嵌まっている...のです。このチャレンジは、上の句が出ていて、対応する下の句を五択から選ぶという単純なもの...。久しぶりに、記憶をたたき出して挑戦すると、これが結構、回答率が高くて、案外、嬉しい日々が続いています。

「百人一首」には大会もあるぐらいだから、札を取るには勿論、コツがあります。読者でキング、クイーンがいらっしやれば、浅知恵の披露で恥ずかしい限りではありますが...。百人一首には、「むすめふさほせ」というキーワードがあり、当時の我が家の三姉妹は、これだけは、動物的速度で札が払えました。

「む」「す」「め」「ふ」「さ」「ほ」「せ」という言葉から上の句が始まる札は、一枚札といって、100首のうち、たった一枚しかありません。ですから、この七枚さえ必死で覚えれば、小学校 1年生でも、6年生に勝てたりします。「むらさめの〜」と始めると、もう「む」と聞いただけで、「きりたちのぼるあきのゆうぐれ」が払えるのです。そんなこんなで、久しぶりに頭の体操をしています。皆さんも、来年のお正月は、お子さんと「百人一首」に挑戦！どうですか？

本当に子供の頃に覚えたことは、いつになっても忘れませんね。「聞いたそばから忘れてく〜、今日この頃を憂う毎日〜」お後がよろしいようで...

)むら雨の梅雨もまだ干ぬ
まきの葉に
霧立昇る秋の夕暮れ



挑 戦

戸津 洋介

挑戦というと大きな挑戦をイメージしてしまうが、ここはあえて日常生活における些細な挑戦に焦点をあてたいと思う。

もう数年前のことだが、チューインガムを噛んでいてふと思った。チューインガムは、ある時間を経過すると口から吐き出される運命にある。では、延々と噛み続けたらどうなるのか？徐々に柔らかくなるのか、硬くなるのか、切れるのか、水になるのか、...。ここから私の些細な下らない挑戦が始まった。サンプルは確かクロレッツだったと記憶している。そして、いつ終わるとも分からないクロレッツとの戦いは始まった。

まずはいつもの如く爽やかな香りが口中に広がり、やがていつもの如く味が薄れていった。味が薄れると、クロレッツとの戦いは苦痛以外の何物でもなかった。何度ももうこんな下らない挑戦は辞めようと思った。しかし、私はチューインガムの行く末を確認したいという一心で耐えた。人間の知的好奇心とはときに大変な力を生むものなのである。

数時間が経過しただろうか、その時は訪れた。それまで全く味を出さずに口の中で粘っていた奴が突然消えたのである。それと同時に舌の上にザラザラとした大量の粉状の物質を感じた。この突然の予想外の変化に、私は感動にも似た衝撃を受けた。それまで味は全く無いくせにいつもと変わらぬ粘性を示していた憎きクロレッツが突然粉々になってしまったのである。突然のことに私は躊躇したが、驚く間もなく気持ち悪さに耐えられなくなり吐き出した。しかし、私はこの挑戦が成功に終わり勝利したことに酔いしれていた。

こんな下らない挑戦でも、私は少し成長できたと思った。こうした達成感及び充実感が糧となり、次なる挑戦に私を駆り立てているのである。